

令和5年度 銚子市保健対策推進協議会議事録

1 日時 令和6年3月13日(水) 13時30分～15時

2 場所 銚子市保健福祉センター 2階会議室

3 出席者

団体等	氏名	所属等
医療関係団体	兒玉 晃昌	銚子市医師会会長
	高橋 宏資	銚子市歯科医師会会長
	宮内 智之	銚子市薬剤師会会長
教育関係団体	宇野 聡	銚子市小中学校校長会会長
学識経験者	松岡 由美子	千葉科学大学准教授
保健関係団体	宇佐美 喜美子	銚子市食生活健康推進協議会会長
関係行政団体	井元 浩平	千葉県海匝保健所所長
その他市長が認めた者	稲葉 康晃	銚子商工会議所専務局長

事務局

健康づくり課 鴨作課長、健康・地域医療推進室 島田室長、保健事業室 山田室長、
健康づくり支援班 椎名主任保健師(班長)、鈴木保健師、食の健康推進班 加藤主査(班長)

4 内容

(1) 課長あいさつ

(2) 会長・副会長選出

銚子市附属機関の設置等に関する条例第4条第1項の規定により会長、副会長を選出。
委員から会長に兒玉委員、事務局から副会長に宇野委員を提案した。
委員からの異議がなかったため、会長は兒玉委員、副会長は宇野委員となった。

(3) 会長あいさつ

(4) 会議の公開・非公開

附属機関の原則等について事務局より説明し、公開について委員から了承された。

※傍聴人なし

(5) 議事

① 事務局から「銚子健康プランの進捗状況と今後の計画」について説明

② 意見交換

- 高橋委員 中高生のがん教育について、どのような内容を教育しているか具体的な内容が知りたい。
- 椎名班長 今年度、3か所の中学校にて教育。がん単独ではなく、思春期教育や生活習慣病予防教育の内容に派生して実施している。具体的には思春期教育では子宮頸がん検診やHPVワクチンについて、生活習慣病予防教育では減塩による胃がん予防や禁煙によるがん予防という内容を実施した。
- 高橋委員 実施者は学校の保健指導の先生が実施したのか。
- 椎名班長 銚子市健康づくり課の保健師、管理栄養士が学校から依頼を受け、実施。
- 兒玉会長 他に質問や意見はあるか。
- 井元会長 色々な周知や個別通知、健康教育を様々にきめ細かくやられているなどというので、非常に好感をもって聞いていた。何点かあるので、実現できないものも含めて、記憶に留めて聞いていただければと思う。事務局の説明の中でもあったが、「自然と健康につながる」これは健康施策の最良のもので、皆さんが意識されなくても、それが表に出てくると非常に良い結果となる。
- がん検診：がん検診などは循環器系疾患の延長で一通り実施できるようになれば良い。胃がんによる死亡が多い地域であるので、ピロリ菌などのリスク評価を行い、ハイリスク者は内視鏡検査を医療機関で受診していくことが必要。
- 循環器：発症後の早期発見も立派な予防となる。保健所での脳卒中啓発ポスターを作成し、1分でも早い受診・治療開始を促しているの、銚子健康プランの中で一緒に何か周知ができるの良いのではないか。
- 糖尿病：スマートウォッチ等の使用で、ゲーム感覚で血糖値の測定もできているので、活用を検討するのも1つではないか。
- 食育：保健所が作成した食の応援店リーフレットを本日配布。住民が行きつけのお店に対して、薄い味付けや野菜料理をリクエストするようになれば良い。1人暮らし男性などは行きつけのお店がある人も多いので、食の応援店が一生の財産となり得る。パッと見て、楽しそうと思ってもらえれば、行動変容につながる。
- 歯と口腔：介護予防や健康寿命の延伸、糖尿病対策を含めて、歯周病対策は本当に大事なので、口腔への対策を進めていただきたい。歯周疾患検診や事業を通して、かかりつけ歯科医がいるかを活動指標に加えて欲しい。歯が痛くならなければ、歯科に受診しない人もいるので、この歯周疾患検診の取り組みでかかりつけ歯科医が見つかるのも1つの指標となる。
- 兒玉会長 大変参考になる意見ありがとうございました。他に意見等はあるか。

- 宮内委員 令和6年8月からがん検診の Web 申し込み開始とあるが、実際の申し込み方法を教えて欲しい。また、他自治体の Web 導入効果を知りたい。
- 椎名班長 PC・スマートフォンからの時間を問わない申請のイメージとなるが、申し込み方法の詳細は決定していない。他自治体の状況で具体的な数値は把握していないが、導入の効果があったという報告がある。
- 兒玉会長 健康プラン全体を通して、銚子市はがんや生活習慣病、肥満の割合が多く、平均寿命が短いことにつながっている。特定健診受診率が低いことも以前から課題となっている。特定健診受診者の中でも治療中の人の割合が高いので、かかりつけ医がない人への健診受診対策が必要である。また、健診を受けたら受けっぱなしの人が約50%と多いので、要医療者への受診対策・保健指導も継続して重要となる。
- がん検診について、大腸がん検診の一次検診の受診が低いことが気になる。大腸がん発見時には進行がんとなっているケースが多いので、一次検診の受診率向上の対策を講じて欲しい。
- 食育について、減塩対策をなんとかできないかなという思いが強くある。以前にも提案したが、食塩摂取量を尿検査で測定できるので、数値化して本人に示すことで意識が向上するのではないかと思う。
- また、評価の記載方法について、具体的な数値を記載して欲しい。
- 兒玉会長 他に何か意見はあるか。
- 高橋委員 報告内にもあるオーラルフレイルという言葉の認識率が低い。70 歳頃から対策を始めても遅いので、50 歳ぐらいからの認識率を上げることが、将来的なオーラルフレイル予防につながると考えるので、認識率を上げるようなシステム作りをして欲しい。
- 兒玉会長 子どもの虫歯の割合が多いのではないか。
- 高橋委員 以前よりは減ってきたが、虫歯になっている子は保護者の認識を確認するようにしている。虫歯がある子は10本以上あるなど、虫歯がない子との本数の差が大きい。保護者に対する歯科指導が課題と感じる。
- 兒玉会長 他に何か意見はあるか。
- 井元委員 健診受診率向上について、銚子市の受診票個別通知はきめ細かいと感じる。どの対象に対して、徹底的に実施するかを明らかにして取り組むことが望ましいので、実践できているのではないか。
- また、保健指導について、インターネットでのやり取りも活用できるのではないか。

兒玉会長
松岡委員

松岡委員、何か意見あるか。

子どもの口腔の健康について、学生実習の中で、市の取り組みに参加した。きめ細かい支援を実施していると感じた。子どもの歯科口腔の健康には、保護者支援が重要であるが、両親共働きの家庭だと歯科受診の時間が取れない場合があるので、生活の状況に合わせた効果的な指導が実施できると良いのではないか。

高齢者のオーラルフレイルは、新たな概念となっているので、医療福祉関係者にも行政から発信していくことが有効である。また、通いの場へ出向くことが効果的と言われているので、実施して欲しい。

兒玉会長
宇野副会長

宇野副会長、学校での生徒の状況はどうか。

本校の歯科健診の結果で歯科受診が必要な生徒について、養護教諭が歯科受診率50%を目標として、今年度受診勧奨を行ったが、受診率は30%に至らなかった。子ども医療費助成により、300円で歯科受診ができると説明しても、保護者から拒否されてしまうケースもあった。学校で歯磨きタイムを設けても、本人による一過性の頑張りのみであるので、保護者の意識が重要と感じた。

がん教育について、思春期教育の中で、本校でも招聘して健康教育を実施していただいた。授業の中で専門家からの授業は、ほとんどの生徒が意識高く聞いているし、仮に興味のない生徒であっても、いずれ大人になった時に思い出してもらえらると思っているので、効果的な取組であると感じている。今後も引き続きお願いしたい。

兒玉会長
稲葉委員

稲葉委員、若い世代の方への健康への取り組みはどうか。

事業者団体として、従業員に対する健康の関わりが大事と捉えている。しかし、健診を受診するために、丸1日会社を休まなければいけないというのは難しい状況もある。商工会議所においても、健康経営に重点的に取り組みたいと考えているため、協会けんぽの「健康経営宣言」の取り組みを活用して、各事業者に理解いただきながら、健診受診体制の構築を進めようと検討している。銚子市の取り組みについても、商工会議所としてできることは、協力していきたい。

兒玉会長
宇佐美委員

働く世代の方が健診受診しにくい環境があるのも大きな課題である。

宇佐美委員、推進員の活動で何かあるか。

推進員活動をしている中で、がん検診の啓発ポスターを貼る活動をしながら、地域住民へのがん検診啓発を行っている。

また、子どもへの取り組みとしては、三歳児健診での牛乳摂取についての教育や歯みがき巡回教室の中で虫歯にならないおやつを選び方を教育し

ているので、これらの取り組みの重要性を改めて感じた。

推進員活動の中でも、減塩対策を掲げているので、男性の料理教室などを通じて、薄味に慣れるよう声掛けしている。

児玉会長

食塩摂取量もなかなか少なくならないと感じる。濃い味が好きな人が多くて、薄味に慣れない。

井元委員

千葉県に赴任する約10年前は、この地域の食塩摂取量が約14g以上だったのが、現在10g前後とかなり改善してきた。約4g減塩したという効果が出ているのは、食生活健康推進員の活動も1つの効果として出ているのではないか。しかし、食塩摂取量は個人差が大きい。食の応援店の協力依頼をした際に、「薄味にすると、客がいなくなる」と話す店もあった。客側から「薄味にしてください」という風潮があれば、地域全体の文化として、薄味になっていくのではないか。文化である味覚を変えることは難しいが、将来に向けて、減塩の取り組みを継続していくことが重要である。

児玉会長

その他、意見等はあるか。

ないようなので、事務局は今回出された意見を参考に、今後も計画を進めてもらいたい。

以上で、議事は終了